

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

本院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない患者さんもしくは患者さんの代理人の方は、下記の連絡先までお申し出ください。

1. 研究課題名	前立腺癌に対する尿道線量を低減した強度変調放射線療法の線量評価、治療成績および有害事象に関する遡及的解析			
2. 対象患者	以下の期間に限局性前立腺癌の診断で、当院で外部照射を受けた方			
3. 対象となる期間	平成25年 2月 1日		～ 平成29年 3月 31日	
4. 実施診療科等	放射線科			
5. 研究責任者	氏名	佐藤 まり子	所属	弘前大学医学部附属病院
6. 共同研究機関 (共同研究機関研究責任者)	なし			
7. 研究の意義	前立腺に対する強度変調放射線療法は、従来の放射線療法と比較し、病変部の線量を増加させることができる一方、前立腺中心部に局在する尿道の有害事象の発生頻度が増加するリスクがあります。尿道線量を低減した強度変調放射線療法の有用性が遡及的に立証されれば、前立腺癌放射線療法として標準療法となる可能性があります。			
8. 研究の目的	前立腺癌に対する尿道線量を低減した強度変調放射線療法の線量評価、治療成績および有害事象の発生頻度を遡及的に解析し、従来の放射線療法と比較し、その有用性を検証します。			
9. 研究の方法 (使用・提供する資料等および外部に提供する場合は方法等)	尿道線量を低減した前立腺強度変調放射線療法、尿道線量を低減しない前立腺共同変調放射線療法、および従来の放射線療法を受けた前立腺癌患者の診療情報、治療計画、線量評価データ、照射時のセットアップ記録を用います。治療時の再現性と線量品質の評価を実施します。また治療後の腫瘍マーカーPSA、生存有無に関する情報を用い、生化学的非再発期間、生存期間、有害事象の発生頻度および発生時期、グレードについて遡及的に検討します。			
10. 個人情報の保護	データは匿名化(氏名等を削除)され、本院の研究責任者とその他一部の関係者以外アクセスできないパソコン中に保管・管理します。			
11. 利益相反に関する状況	共同研究者 廣瀬勝己はステラファーマ社との共同研究契約を締結しているが、その内容はホウ素中性子捕捉療法BNCTの新規治療方法の開発に関するものであり、本研究課題とはその対象や内容が全く異なります。 共同研究者 青木昌彦は北川鉄工所との共同研究契約を締結しているが、その内容は前立腺小線源療法における小線源の自動刺入器の開発に関するものであり、前立腺の強度変調放射線療法の技術に関する内容とは異なるため、当研究課題へは影響しません。			
12. 連絡先	弘前大学大学院医学研究科放射線科学講座 佐藤まり子			
	電話	0172-39-5103	FAX	0172-33-5627